平成 27 年度　第 1 回連携テーマ部会　議事録

■日時：平成 27 年 9 月 9 日（水）　9:00～12:00
■場所：高知城ホール　2 階　中会議室（せんだん）
■出席者：名簿のとおり

◎質疑・意見交換内容（要旨）

【①産学官連携による力強い産業の礎を築く】

（川村委員）

ココプラと産業振興センターの役割分担が少し分かりにくい。両者の間にグレーゾーンがあるのではないか。その部分の難しい繋ぎをどのようにフォローするのかお聞きしたい。

⇒**（文化生活部）**　役割が重なっている部分もあるため、どちらにご相談いただいてもよいが、従来の取り引き等の中で商品や相手方が決まっている場合等は産業振興センターに、何もとっかかりが無い場合はココプラに相談いただければ良い。

（西委員）

ココプラだけの話ではないが、広報の仕方を検討して、広く知っていただく努力をお願いしたい。

⇒**（文化生活部）**　どういう種類の相談があって、こういう対応をしたということを公表することで、相談しようと思っている方の参考にもなるので、ぜひ検討したい。

【②中山間の暮らしを支える産業づくり】

（西村委員）

コミュニティビジネスについて、補助金を活用した件数や補助金額が分かれば知りたい。

ジビエについて、どんなものがあって、また商業ベースにのっているものがあるのか知りたい。

⇒**（産業振興推進部）**　小さなビジネスでは、例えば豆腐やみそなどの加工品を作りたいという希望があった場合、いろんな設備等が必要になってくるので、その後押しを補助金でしている。H26 は全体で 12 件、570 万円ほど。本年度は現在 2 件、さらに 6 件の申請を予定している。

⇒**（中山間対策・運輸担当理事所管）**　ジビエの数の把握は難しいが、専用の処理施設が県内に 5 箇所あり、またジビエ料理が食べられる所が 30 箇所ある。

（西委員）

地域によって差があると思うが、地域別に成績表を作ってもいいのではないかと思う。努力しているところは、それによって地域住民の所得がこれだけ上がった、上がらなかったところは、それがなぜかを考えて付加価値を付けていく取り組みにつながると思う。

一つの地域を民間に任せて株主になっていただいて進めるというのも一つのやり方である。今までの支援のやり方を変えるのも大事。またその成果を数字で表し示していくことも必要だと思う。

⇒**（中山間対策・運輸担当理事所管）**　アウトプットではなくアウトカムが大事というのは仰るとおり。地域によって背景や事情は大きく異なり順位付けするのは難しいが、他の地域がどんなことをしているか知ることが刺激にもなるので、最近ホームページを立ち上げて情報提供しているところ。

（川村委員）

集落活動センターができて3年で、これまではそれなりにできるが、そこから継続・発展させていくのはそれまでの3年よりずっと難しい。130箇所となったときに、本当に回るのか不安になる。

コミュニティビジネスでは、産業福祉という視点が大事といわれている。病院に行かないシニアの方が、元気で収入も得ながらやっていくということを、これを数字で表さないといけないと考えている。医療費の削減も指標のひとつ。

地域では、もう一歩踏み出すべきところで踏み出せない等、知識では分かっていても、ビジネスをしていく、という所がどうしても弱い。同じ状況が続き、跡継ぎがいなくなって事業が廃止される、ということが繰り返されているように思う。

たとえば、森のオーナー制度のように、集落活動センターのオーナー制度を期間限定でやり、その企業の得意とする分野を活かして商品を作っていくということをしてはどうか。

企業と集落活動センターのパイプを作ってあげればいい。社員研修だけでも100人単位で高知へ来ている。都市と地域を行き来する中で、Uターン・Iターンも考えてくれるようになると思う。

【③産業人材の育成・確保】

（川村委員）

今までの教育は、1から3にする、5にするために、どういうスキルをもつか等のノウハウ・ハウツーを身に付けていくことが主だった。しかし、ゼロから1のところが課題。単純に起業ということではなく、企業の中にいてもゼロから1を作ることを求められている。アイデアソン、ハッカソンなどを取り入れている。今までのワークショップは、課題はすでに共有されているものを1から3にしていくものだったが、アイデアソンは、頭を柔軟にして発想していくもの。企業からも、勉強する場はあるが、真剣に知恵を出し合って作っていく場はなかったので、若手の人材育成として非常に良かったというご意見をいただいている。こういう手法は学生さんの意識を変える学習にもなる。今後は、ゼロから1を作って、それが教育にもなっていって、若者が能動的に動いていく仕掛けというものも一緒に考えていけるといい。自分が発案したものが形になっていく、それを自分で形にするために高知で就職したいという形につながっていくといい。

⇒（文化生活部）　我々の分野ではコンテンツの振興も担っており、この分野でアイデアソン、ハッカソン手法をやろうとしている。他のどんな分野でも応用できると思うので、我々がやるときに各部局にお声かけをし、見てもらい参考にしてもらえればと思う。

（西委員）

物流・販売の対策を一緒に考えてやっていただきたい。県外に行って仕事をもらってくるのにも、時間とコストが必ず課題となる。高知新港では海路は今無いので、東洋町に揚げて車で取りに行っている。こういったことは、一次産業全てにあることだと思う。

「もの」は、市場がないと売れないが、高知の中だけでは知れている。市場の拡大をどうするか、行政のサポートをお願いしたい。

高知は資源はあるので、魅力ある付加価値の付け方を一緒に考えていって欲しい。

小中学校からの人材育成が必要。小学生が10年経つと働くようになる。また学生が企業を知らないというのがほとんど。高専で工業会がプレゼンをしたが、知っている会社が1社しかない、という状況。企業側の活動も大事だが、教育委員会側の活動も大変大事。

（以上）